

ヴェルデイ×シェイクスピア×フェルメール！

十七世紀オランダ絵画の世界によるミラー演出『ファルスタッフ』

二〇一八年の最後にお贈りするオペラは、シェイクスピアの戯曲にもとづくヴェルデイ最後のオペラ『ファルスタッフ』。「この世はすべて冗談」と歌うフーガでしめくくる、ヴェルデイのあっぱれな人生観もうかがえるような名作をイギリスの名匠ジョン・ミラーが演出する、新国立劇場の名プロダクションの見どころをご紹介します！

行列に並ばず座って観れる
「もう一枚」のフェルメールの絵!?

十七世紀オランダの画家ヨハネス・フェルメールの絵画は世界に三十数点しかないため、日本に作品がやってくる大きな話題になり、展覧会は大盛況。みなさんも行列に並び、人混みをかき分け、作品をご覧になったことでしょうか。そんなフェルメールの「隠されたもう一点」が新国立劇場にあることをご存じですか？ 座って観ることのできる新国立劇場のフェルメール……それはオペラ『ファルスタッフ』です。シェイクスピアの『ヘンリー四世』『ウィンザーの陽気な女房たち』にもとづく、太鼓腹の老騎士ファルスタッフを描いたヴェルデイ最後のオペラ。新国立



ヨハネス・フェルメール(1632~1675)『恋文』(1669~70年頃)所蔵:アムステルダム国立美術館。
ミラー演出『ファルスタッフ』を見たあとは、ファルスタッフからの恋文を渡され、怪訝な顔をするフォード夫人アリーチェに見えるかも。

劇場のプロダクションを手がけたイギリスの名演出家ジョン・ミラーは、シェイクスピアの時代の家屋を詳細に描写したものはオランダ絵画しかない、と考え、フェルメールなど十七世紀オランダ絵画の世界観による『ファルスタッフ』の舞台をつくりあげました。「真の人間の行動にこそ興味がある」「人間同士のやりとりこそ真実がある」と考えるミラーにとって、女性にちよつかいを出すフェルスタッフと、彼を懲らしめようとする人々のやりとりを描く舞台設定として、市民を描いたオランダの風俗画がぴたりとはまったのでしよう。

舞台全体の色使いや衣裳など、まさにフェルメールの絵から飛び出してきたようですが、ここで注目すべきは床です。オランダ絵画の特徴のひとつに遠近法を使った床があり、ますが、『ファルスタッフ』の舞台の床も、オランダ絵画らしい幾何学模様で描かれています。舞台でも遠近法を使ってデザインしているので、四角い模様はひとつずつ角度が付き、少しずつサイズが異なっているため、いわゆる「コピペ」ではなく一本ずつ線を引いて描くというとても精緻な手作業によって作られています。

フェルメールの作品では室内に絵がかかっていることが多いですが、『ファルスタッフ』の室内にも絵がかけられています。「絵画の中に絵画」の世界も再現されています。また、フェルメールの絵といえば「窓」で、『ファルスタッフ』にももちろん窓はあります。美術家イザベラ・バイウオーターのこだわりによって、小道具もフェルメールの世界観が丁寧に表現されているのです。



2015年公演より ©寺司正彦

T字の二つの舞台装置 ぐるりと回して舞台転換

十七世紀のオランダ家屋を表現した舞台は、しかし、当然ながら四面が壁で囲まれた建物ではありません。これらはT字の舞台装置二つを組み合わせたもので、それを回転させることで場面転換します。

舞台上には樽やベンチ、棚、ベッドなどがありますが、これらはすべて壁、つまりT字の舞台装置にくっついています。テーブルなど、壁から離れたものも、黒いバーによって壁とつながっています。ですので、T字の舞台装置を回転させるときは、テーブルやベンチも含めて、舞台上のすべてがぐるりと回転します。

ファルスタッフ

12月 6日 (木)

12月 9日 (日)

12月12日 (水)

12月15日 (土)

会員郵送受付締切

7月5日(木)

会員先行販売期間

7/28(土)
~8/21(火)

一般発売日

8月25日(土)

場面を転換する際は、T字の舞台装置を左回りに動かすか、それとも右回りか、その場面、装置ごとに決まっています。音楽に合わせて行います。注意しなければいけないのは、先ほど言った通り、壁にベッドやテーブルなどがついているため、回すタイミングを間違えると、もう一方のT字の舞台装置とぶつかってしまい、どちらも動かなくなってしまう。そうならないようにするには、片方をわずかに先に動かすなど、速さの調整が必要です。実際に舞台装置を動かしているスタッフは壁の裏側から押しているのです、その先でぶつかるとか見えないため、舞台上から回転の様子をモニターでチェックしているスタッフからの指示を聞きながら動かしていきます。というわけで、舞台装置は人力で動かしています。左右の舞台装置の速度のタイミングだけでなく、公演ごとの音楽の速度にも合わせる必要があるため、人力ならば柔軟に対応できます。舞台装置を動かす際は、指揮に合わせて演奏するような気持ちも必要なのかもしれません。

T字の舞台装置が一番大きく動くのは、第二幕第一部から第二部フォード邸への場面転換です。下手の装置が一八〇度、上手の



フェルメールと同時代に活躍したオランダの画家ピーテル・デ・ホーホ(1629~1684)「玄関で女性に手紙を渡す男性」(1670年)所蔵:アムステルダム国立美術館。「ファルスタッフ」の床の模様はオランダ絵画をもとにしていることが、この絵からも分かります。



壁についたベンチ。その前のテーブルも、床を伝う2本の黒いバーによって壁とくっついています。舞台転換のときは、壁と共にこれらが一緒に回ります。

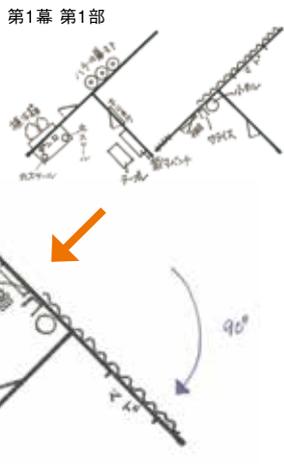


壁の左側にオランダ絵画風の絵が。室内を描いた絵で、舞台上にさらなる奥行きを生み出しています。



遠近法を使って描かれている床。四角の大きさや角度がだんだんと変化しています。

T字の舞台装置2つをパズルのように組み合わせて作る舞台。第1幕第2部フォード家の外の場面を、スタッフ手書きの転換表と実際の舞台写真を並べてみました。T字の舞台装置は第1幕第1部から90度回転してこの形になります。



装置が二七〇度回転します。上手の装置は逆回りをすれば九〇度の回転で済みますが、それをわざわざ二七〇

度回すのはジョンサン・ミラーのこだわり。ぐるりと回すことでわざと「見せる」舞台転換にご注目ください。



第2幕第2部フォード邸内。この場面になると、T字の舞台装置が大きく回ります。

